

重要な構成要素「公衆便所」

建築：1988（昭和 63）年

参道の景観を構成する要素

^{たいしゃくてん}
「帝釈天及び参道景観保全に関わる指導基準」に沿って「観光拠点の整備の一環」で建築された公衆便所です。

柴又の参道の風情に合うよう、日本庭園風の外構と和風の建築に仕上げられています。建物正面の外観が連続した参道にあわせて、屋根・^{ひさし}庇などの街並みの表情を作る要素により賑わいを演出し、周囲の景観に配慮したものとなっています。

この場所は、敷地内に柴又帝釈天遺跡の石碑があるように古代の遺跡の包蔵地なので、公衆便所建設に伴い事前に発掘調査が行われました。発掘調査の結果、古墳時代後期の土器などが出土しています。



昭和 30 年代の様子（個人蔵）